が強く働いて、それ等の干渉政策もその教化誘導といふ理想主義的見地から出でたのではあるまいか。是は事些細に似て些細ならざる問題であらう。（四六版三二九頁、改造社發行、價二・三〇）〔德重〕

◉特選神名牒　　內務省藏版

本書は明治初年政府が各府縣に命じて其管內諸神社の祭神由緒社格等についての詳細なる調査を爲さしめて編纂したものであつて、編纂の大規模であつた事、衆智を集めて考證研覈せしめた點に於て此種の典籍中比類を見ないものである。然るに編纂以來永らく內務省に祕藏せられて容易に閲讀を聽されなかつたことは識者の少からず遺憾としたところであつたが此度初めて出版して世に公にされるに至つたのは喜ばしい事である。記述の體裁は先づ宮中の諸神に始まり次に京中座、同京四條座神を掲げ、それより山城國以下各國に分ちて諸社の祭神祭日社格所在等を記載してある。殊に編纂當時所在不明或は社地堙埋の分をも出來るだけ搜索檢覈して掲載してある

ことから神社に關する研究者にとつては無比の參考資料である。唯だ本書の原本であつた內務省本は先年の大震火災の際烏有に歸した爲め五八〇頁以下は校正に不充分な箇所が少くないさうであるがこれは已むを得ない事であり、且つ本書の編纂以來殆んど五十年を經過し其間に神祇神道の研究も著しい進歩を來したから今日より見れば本書にも種々不十分な點が有るのを免れないのは固よりのことである。併し乍ら斯かる貴重書が幸に大震災の爲めに原本が燒失したに拘はらず斯く世に出る事となつたのは神社研究者にとつて此上ない幸福と云はねばならぬ。（菊版八四七頁、東京磯部甲陽堂發行、價一〇圓）

◉尾張國解文

本書は一條天皇の永祚元年尾張國の郡司百姓等が國守藤原元命の非違三十一條を擧げて官府に愁訴した解文の名古屋市眞福寺寶生院所藏に係る正中二年古鈔本を精巧なる玻璃版に附して複製したものであつて、右原本は現存する解文中の最古の寫本として夙に學界の注意を惹

き既に明治卅八年に國寶に指定されたものである。解文の全文は既に史籍集覽にも收めてあつて平安朝に於ける地方政治を研究する者の必讀するところのものであるが之を古寫の原形の儘鮮明に寫されたものを見ることは活字本を以てするに比して遙かに得る所多く、殊に其の字體訓讀假名遣等の古態の儘なるは古文書學國語學等の研究者に多大の裨益を與へる。惜むらくは原本の卷首に十數行の闕文があるが其の部分は本書の末尾に附せられたる解說中に揭書してあり諸本の文字の異同をも檢校してあるから大に便利である。其他讀者の參考に資する爲め此の解文につき大體の說明をも載せてある。吾人は斯る希覯の寶典を殆んど原本の儘に座ながら見ることが出來るのを大に喜ぶものであつて他の多くの珍籍に就ても斯かる企の益々多からんことを切望して止まない。（和裝、名古屋溫故會發行、非賣品）

◎鎌倉時代の研究

史學地理學同攷會編

本書は曩に史學地理學同攷會より雜誌『歷史と地理』の第七卷第五號として發行された『鎌倉時代の文化』を殆ど全部に亙つて修正しもと揭載されてあつた諸篇の外に新たに文學博士三浦周行氏の「御家人の生活」同西田直二郎氏の「鎌倉時代の文化に就いて」文學士高橋俊乘氏の「鎌倉時代に於ける學問範圍の擴張」牧野信之助氏の「庄園內に於ける浪人」井川定慶氏の「法然上人の法語に就て」文學士中村直勝氏の「淨土敎藝術に就ての一私見」栢原昌三氏の「蒙古襲來の一批判」の七篇を加へ圖版をも增加して出版されたものである。鎌倉時代の文化は前代の柔弱なる貴族文化に對して新たに潑溂たる元氣を以て興つた武士中心の文化であつて、一種獨特の色彩を有して居り之を對象とした研究は頗る興趣の多いものである。本書は之れを各方面より詳細に觀察批判したものであつて、各獨立せる廿二編の論文より成るも之を通讀すればよく此時代の一般文化の狀況社會の諸相を會得することが出來るのであつて鎌倉時代の研究者にとつては必讀の書であるのみならず國史に趣味を有する一般人士にとつても此亦時代の事を知るに最も適當の書物であ

る。（菊版五〇六頁、京都星野書店發行、價五、三〇）

●百代草

文學博士　佐々木信綱編

編者が和歌史を專攻する傍ら手に入れた古書畫古文書古人の筆蹟等の中から優秀なるもの百種を選定して寫眞帖を作り、一は以て編者が多年心血を注いだ校本萬葉集の完成記念となし一は以て其中の十數種を贈つた知人の好意に酬いんとした自費出版であつて、古くは奈良朝時代の右京計帳から平安朝初期のものと覺しき日本書紀神代卷、律疏殘篇さては御堂關白記抄等の斷簡等があり、完全なものには文書に龜山天皇宸翰、藤原能季解狀、沙彌成信訴狀等があり圖書には後奈良天皇宸翰天聽集、靈元天皇宸翰古今集序注梁塵秘抄耕雲千首等があり詩歌には明人方梅屋の石原守澄を送る詩、僧東惠の戀岡和尙を送る長歌等があり、肖像には佐々木高員、賀茂眞淵等のものがあり、其他伊曾保物語、チャンバーレン氏英譯古事記稿本等各方面の珍書奇畫は萬葉集古抄本等と共に編者の趣味の豐潤なるを思はせる。終りに簡單ながら要を得た編者及び和田三浦新村諸博士の解說が添へてある。料紙といひ、標裝といひ、何れも精巧遒美を極めて居るのは遺に編者の意巧と領かるるものである。

●最上郡史料叢書

文學士　嶺　金太郎編

本書は最上郡に關する史料として戸澤年譜、新庄家中屋敷割、豐年瑞相記、新庄壽永軒見聞集、郡內の古館址、新庄領村鑑の六編を收錄したものである。戸澤年譜と新庄家中屋敷割とは諸種の記錄類に依つて編成されたもので、豐年瑞相記は福井富敎の著した寶曆五年凶作の記錄であり、新庄壽永軒見聞集は享保頃新庄藩全盛時代の有樣を一町人が描寫したと思はれるものであり、郡內の古館址は古館九十六の位置大小地貌現狀館主所屬の寺社等を記したもの、新庄領村鑑は舊庄屋本を基として諸本を參訂し、外に村々に關係ある舊記古文書を併載したものである。斯る史料を考證對勘して編成するとは可なり苦心を要するものであるが編者がよく之を成されたのは此地方の舊史古蹟を知る上に頗る便利で鄉土史の研究者に

こつて稗益が少くない。就中最後の編中に元和八年戸澤氏就封以前の古文書を多く收錄してあるのは其時代に於ける同地方の不明確な史實を考究するに多大の便宜を與へるものである。（四六版二二八頁、山形縣葛麓社發行價一、五〇）〔以上松野〕

●西洋中世の文化

文學博士　大類　伸著

本書は大正五年「西洋時代史觀—中世」の改版である。內容の大部分を書き改め特に宗教、文學、美術等の精神文化方面は全く新しく起稿されたものである。著者に從へば中世の特質の一つはシムボリズムにある、この象徵主義の中世味は既に本書の裝幀のうちににぢみ出てゐる。クリーム色の布表紙は淡小豆色の脊とよく調和し、表紙の眞中より少しく上めに暗黑色をバックに灰色の「美しき神」le Peau Dieu 卽キリストの半身像畫がはられてゐる。此像は中世ゴテイク建築の一大傑作、佛國アミアンの大寺が入口の柱に立てるもの、中世的意味での「完全」をこよなく象徵せるものである。暗黑色のバックは中世のシノニム所謂「暗黑時代」を、その中に浮出る「美しき神」像は宗教的中世を象徵し、像畫の黑色に對照してクリーム色の明さは中世に先立つ古代の明さかそれとも中世に續く近世の光りの象徵かとも解されるであらう。斯本書は外容よりして、すでに、中世文化の內容を象徵してゐる。本書の取扱つてゐる問題の範圍は「中世の始」より「基督教世界の安定」「社界及び國家、と政治及び軍事」「基督教文化と其の一新」「文學及び美術」「經濟生活及び都市」「中世の終」まで章を分つこと七つ、節の總數廿四、五五五頁の大册である。しかし中心的主題としては、十二、十三世紀卽ち中世の高潮期を取扱つてゐる。本書の創意的特徵は著者の中世史觀卽ち中世史變遷の跡付——不安動搖の時代、安定の時代、新生命發動の時代——にあると思はれる。著者は又中世を理解すべき者の取るべき態度に就て次の如く述べてをらる。それは第二章に於て「歷史的に考へれば基督教會は信徒の集合團體から發達したものである、卽ち自然的發展の結果に過ぎない、併し地上に建てられたる神國としての教